

《教育長メッセージ 第51号》

『全国学力・学習状況調査』

12月1日に、今年度の「全国学力・学習状況調査」の海老名市の結果と各学校の結果を海老名市教育委員会ホームページで公表しました。

市の結果については、平均正答率を示して、その分析を文章表記しています。各学校の結果については、学習や生活の状況とその分析を、これまでの取組と今後の取組として文章表記しています。また、家庭へのお願いのページを設定しています。

ぜひ、ご覧ください。



さて、「全国学力・学習状況調査」は、平成19年度から文部科学省の全国調査として全小中学校の小学校6年生と中学校3年生を対象に実施されました。その頃、国際的な学力の調査での日本の結果が低くなったこと、具体的には、大学生なのに分数の計算ができない学生がいるなどの学力低下を危惧する状況があり、その原因とされる「ゆとり教育」からの脱却をめざして、実態把握と学力向上のための改善策として調査が行われてきました。

途中、平成22、24年度は、抽出校での実施、平成23年度は東日本大震災により中止となりました。

結果としては、依然として各国と比較して「学習意欲」は低いものの、国際的な学力調査では、ランクを上げ、国内でも上位県と下位県の差が縮まり、一定の成果が見られているところです。

本市においても、結果の公表をはじめて3年目となりますが、小学校では、平均正答率で、今年度初めて、国語B（活用の問題）が全国平均を上回りました。国語A、算数においても3年間で全国との差が確実に縮まっています。中学校では、3年間とも国語、数学が全国を上回っています。

また、子どもたちの生活や学習の様子を把握する児童生徒質問紙調査では、携帯電話やゲームの使用時間や地域・社会への関心については、まだまだ課題が大きいですが、年度ごとの推移をみると確実に改善が図られています。

本市では、学力や生活の状況が、年々、向上しています。

もちろん、対象の学年の年度ごとの特徴もあり、平均正答率やアンケー

ト結果の数値で一喜一憂するものではありませんし、一面的な調査であることから、これによって学校教育活動のすべてが評価されるものではありません。しかしながら、全国的な唯一の調査であり、その結果をもとに、市としての教育施策の展開や学校の指導の改善に生かさなければならぬと考えています。

そして、全国学力・学習調査の結果の分析、さまざまな議論の中でその公表を行って、私が実感したことは、「みんなで」という意識を持って物事を継続的に取り組むことの大切さです。

子どもたちの学力向上のために、調査結果を受けて、教職員が課題や改善策への取組について共通理解し、「みんなで」あきらめずに取り組むことで、子どもたちへの責任を果たせるということです。

市としての取組も同様であります。

今後は、生活の状況の改善に向けて、保護者や地域の方々と課題を共通理解し、より緊密に連携し取り組みが必要であると考えています。

まさに、市全体の取組として、子どもたちの今と将来のしあわせのために取り組んでいきましょう！

よろしく申し上げます。

次回は、「冬の遊び」について、子どもの頃のことを話してみたいと思います。